

特別支援教育研究部会

I 研究テーマ

『特別な支援を必要とする子どもたちの望ましい理解と支援体制の確立をめざして』

II テーマ設定の理由

特別な支援を必要とする子どもたちのニーズは様々である。それら一つ一つに応えるためには、専門的知識に裏付けられた確かな児童生徒の理解と校内支援体制および他機関・保護者との連携が重要である。そのための基本的な考え方や手だてを多方面から探っていく必要がある。

III 研究の経過と内容

4月11日 <第1回部会総会> (全体：組織作り、年間計画)

5月14日 <第44次春季教育研究集会> (全体集会) <第2回部会研究会> (全体)
各班の研究計画決定<授業実践・生活支援・通常学級>

6月18日 <第3回部会研究会> (班別)

[授業実践] ○貢川小「テレビ会議システムを使った自閉症・情緒障害児学級の指導事例」

○東中「中学校特別支援学級の授業づくり～デジタル教材を使った数学指導～」

[生活支援] ○大國小「排泄の指導の実践」

○舞鶴小「見通しを持った生活」

[通常学級] ○北新小「通常学級の特別支援～2年生Uさんの支援の事例～」

○附属支援「情緒学級在籍児童の進路」

7月31日 <第4回部会研究会> (班別) <第44次教育研究集会> (全体集会)

[授業実践] ○中道南小「特別支援学級における授業実践」

○南西中「自立活動の実践事例～林間学校の思い出を振り返ろう～」

○西中「教科領域を合わせた授業実践～トイレトペーパーホルダー作り～」

[生活支援] ○池田小「栽培活動を通しての実践報告」

○朝日小「穏やかな学校生活を送るために」

○国母小「作文指導の課題」

○附属支援「視覚的カード類の利用について」

[通常学級] ○伊勢小「発達障害・情緒障害通級指導教室における支援」

○東中「交流学級での指導事例」

○城南中「通常学級での支援～中1Aさんの事例」

○富竹中「通常学級より特別支援学級に在籍するまでの生徒の様子」

8月16日 <第5回部会研究会> (班別)

○附属特別支援学校サマーセミナー参加

9月3日 <第6回部会研究会> (班別)

[授業実践] ○朝日小「総合的な学習の時間の指導について」

○附属支援「小学部 高学年 健康について考える」

[生活支援] ○富竹中「自閉症・情緒障害学級における指導」

○石田小「A君に関わる支援の実際」

[通常学級] ○石田小「特別支援学級入級児の通常学級での支援」

○北中「交流学級の生徒との関わり」

○北東中「通常学級における支援」

10月 1日 <第7回部会研究会> (班別)

[授業実践] ○玉諸小「作文指導を通して」

○山城小「カタカナの読み書き指導」

[生活支援] ○北新小「これまでの取り組みからの課題」

○城南中「ソーシャルスキルトレーニングについて」

○南中「野菜作り体験で様々な力を身につける」

[通常学級] ○善誘館小「吃音のある子への支援～グループ活動を通して」

○千塚小「通常学級在籍児への支援～中学校との連携にむけて～」

11月 5日 <第8回部会研究会> (ブロック・全体)

○各班の実践および研究の反省 ○県教研還流報告

1月21日 <第9回部会研究会> (全体) ○全体研究の反省・次年度に向けて

★実践例 単元名 他校のお友達と交流しよう (中学校：生活単元学習)

単元設定の理由 (単元で大切にしたいこと)

・卒業生との最後の思い出作りもあるが、学級で取り組んできた学習の1年間のまとめとして位置づけて、交通機関や外食の利用、社会科見学としてのあいさつやマナー、金銭管理など、これまで教室で学習してきた成果を校外に出て社会の中で実際にいろいろな体験をする中で確かめることをねらっている。

・生徒の主体的な取り組みにつなげる。



本単元と、各教科等との関連

国語

- ・応答の仕方
- ・感想文
- ・壁新聞づくり
- ・お礼状

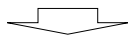
社会

- ・身近な地域 (甲府市)
- ・地図の見方
- ・働く人々 (放送局, 銀行の仕事)

1月
中旬

題材 「オリエンテーション」

- ・昨年度のお別れ校外学習のスライドを見て、思い出す。
- ・お別れ校外学習の目的を確認する。
- ・卒業の意味や、卒業生に対しての思いについて話し合う。



題材 「計画・スケジュールづくり」

- ・お別れ校外学習の場所を決める。
- ・取り組み日程, 当日の日程, 活動内容等を考える。



2月	題材 「事前学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動方法，発車時刻・場所について調べ，乗車練習をする。 ・ 公共の場でのマナーについて学ぶ。 ・ 見学先での挨拶や質問の仕方について学び，練習する。 	数学 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時刻と時間 ・ 金銭実務
2月 中旬	題材 「校外学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に取り組み，満足感や達成感を深める。 	保健体育 <ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーション
	題材 「事後学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 当日の写真や作成した壁新聞を使って活動全体を振り返る。 ・ 見学先へのお礼状を書く。 ・ 自己評価や他者評価を行う。 	自立活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境の把握 公共の場でのマナー ・ コミュニケーション
<p>この単元ではこんなことが！</p> <p>数学では，時刻表を使って，行き帰りの電車の時刻を調べさせたり，見学の所要時間を計算させながら，時計の読み方や時間について復習したり，食事の注文を練習させて，おつりの計算ができるようにしている。事後の期末テストでも，時間やお金の出題して理解度を確かめるようにした。問題文からのイメージがしやすかったのか，正解率が高かった。</p>		国語 <ul style="list-style-type: none"> ・ 応答の仕方
		資料・準備品 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時刻表 ・ 見学先等を調べるためのPC

IV 研究の成果・課題

本研究会では昨年までは校種別（小学校、中学校、特別支援学校）の班に分かれ、研究を積み重ねてきた。しかし、近年、小中連携、通常の学校と特別支援学校との連携が叫ばれており、各校種の教職員が交ざり合う形での班編制が望ましいのではという意見が高まってきた。また、本地区の特徴として山梨大学の附属特別支援学校の教職員が参加している点もあり、専門的な支援技術の伝達という面からも校種間混合の班編制をすることとなった。

本年度はテーマ別に「授業実践」「生活支援」「通常学級」の3分野に班を分け、各校種の教職員が均等に所属し連携を深められるように配慮した。また、本年度も昨年度に引き続き、附属特別支援学校のサマーセミナーに参加し、地域連携を実際に行った。

研究組織の改善により、各班とも様々な角度からの意見が多数出されるようになり、部会研究が活発化した。特に、小学校から中学校・高校、通常学校から特別支援学校といった進路の問題については、長い見通しを持った意見も交わされ大変参考になった。

我々が目指している特別支援教育のインクルーシブ化への取り組みについても、法令上の進展も見られるようになってきている。時代の幕開けが感じられると共に大きな混乱も予想され、今後も本研究部会のさらなる充実が求められている。